エコしよう eco一do！（エコドゥ） 2020. 6. 20号

コロナウイルスとCO2削減

フィンランドの研究機関によると、コロナウイルスにより経済が減速した影響で、中国だけでも2億トン分の二酸化炭素（CO2）が大気中に排出されなくなり、CO2排出量は25パーセントも減少したとのことです。

産業に活気がなくなり、働き手が家にいるようになり、電力網の負担が減っている。そして人々は、世界中どこでも空の旅を徹底的に避けている。と研究機関は述べています。

コロナウイルスの経験は、我々の生活様式を大きく変えようとしています。在宅勤務や、リモート会議ツールの普及など、CO2排出量を減らし、地球温暖化を防止することができるチャンスでもある訳です。

「Ｅｃｏ列車でいこう！」～第 131 回～　吊り橋渡ってレッツゴー！

（ＣＯ２排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです！）

６月２１日（日）。梅雨の中休みで快晴だ。

山形県小国町から朝日連峰の祝瓶山（いわいがめやま）を目指す。

朝７時、標高４００ｍの登山口を出発。この山は「東北のマッターホルン」の異名を持つ形の良い山で、日本３００名山にも選ばれている。頂上までのコースタイムは3時間３０分だ。

出発してすぐに、スリル満点の吊り橋を渡る。仮設工事用の細いパネルの上を慎重に歩く。踏み外せば川に真っ逆さまだ。それにしても、この清流はとてもきれいだ。朝日連峰の雪解け水が溢れている。

吊り橋を無事越えて、少し進むとブナの森となる。山深い地方なので、幹が太く、葉も多い。新緑の木漏れ日がまぶしく、とても気持ちがいい。700m付近までは、少し登って、少し平らになっての繰り返し。階段はないが、いたるところに巨木の根が階段状に貼り廻らされていて歩きやすい。さらに進むと、登山道の左側には100名山の「大朝日岳」が姿を見せ始めた。

800m付近から1200mまでは急登が続く我慢の道。登っても登っても、視界が開けず、大汗をかきながら樹林帯をもがくように進むと、ついに眺望が開けた。標高1239mの「一ノ塔」だ。

祝瓶山まではあと３０分。ここからは、がんばってきたご褒美。「花の道」が始まる。

「ヒメサユリ」や「ゴゼンタチバナ」「ミヤマキンバイ」に囲まれながら、登り下りを繰り返していく。

最後の急登が終われば、頂上到達。360度の大パノラマに、思わず声が出る。

コンロでお湯を沸かして食べる「ラーメン」と「おにぎり」の美味しさ。山で食べるカップラーメンはほんとにウマい。バナナと生クリームをスポンジで巻いたスイーツの甘さで体力を回復した。

景色を堪能して下山。何度も足を止めて、絶景を目に焼き付ける。途中、痩せ尾根があるので、足元にも注意しながら慎重に下った。

小国町中心街のショッピングセンターで、山形名物「鳥中華」をお土産にして、帰宅した。